

【ゴーストジェガンF & ゴーストジェガンM】

製作文/マリオ・レナート 解説文/マリオ・レナート

機度となくオファーを行い、ついに登場するのはアルゼンチン代表の世界的双子プレイヤー、レナート兄弟！今回は兄、マリオ氏が製作した新型機ゴーストジェガンの2バージョンのお披露目と、それを駆る弟マリオ氏の解説と共にお届けしよう！

【ゴーストジェガンF / 機体解説】

「恐れ知らず」の意味を持つフィアレス (Fearless) の頭文字を与えられたシャドウカラーのゴーストジェガンFは、夜視、宇宙等の状況下での隠密行動を想定したセッティングが施されている。こちらはゴーストジェガンMと反して動的な戦術が得意であり、集めたアクティブセンサーは一度捉えた敵を確実に逃さない。型式番号はRGM-89GF。

GHOST JEGAN **F**

【ゴーストジェガンM / 機体解説】

山野、攻城戦を主体とする野戦向けセッティングが施された、グリーンカラーのゴーストジェガンM。型式番号はRGM-89GM。さわめて注意深い1対1の争奪戦を持つメテオ・ケッラス (Meticulous) の頭文字を基に名称と駆動音響を採り出したことからわかるように、優れたバンプセンサーで確実に敵を捉え、万全の手段で対応する静的な戦術を得意としている。

GHOST JEGAN **M**

GHOST JEGAN **F**

1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE (+SCRATCH)" MODELED BY Mario Renato

GHOST JEGAN **M**

1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE (+SCRATCH)" MODELED BY Mario Renato

【質実剛健なる幽霊】



■頭部部のバイザーユニットはデザインだけでなく、M、F両機ともセンサー方式が大幅に異なる。Mは受動的に状況を検知するパッシブセンサー、Fは能動的に状況を検知するアクティブセンサーが組み込まれ、まさしく「受け」と「攻め」の相反する性能が与えられた。

GHOST JEGAN M GHOST JEGAN F

■両機共通のバックパックにマウントされた大型ビートナイフ。敵を攻撃するためだけに使うわけじゃねえ、他の装備を全部失っても、こいつさえあればバトルフィールド全体を武器にできる。この意味がわからないようじゃ、生き残ることはどうも無理だな(フリオ氏)

■ゴーストジェガンF専用で製作された、長絶命かつ大威力のビームスナイパーライフル。
巨大型ビートナイフに加えジェガンのビームライフルとバズーカが標準装備だが、背面の接続方式はジムスナイパーK9と共通のため、両機の装備も引き継ぎ装着することが可能。「使い勝手の良い武器は常に最新式より有効だ、冗員もそう言ってる(フリオ氏)」



F & M
[共通装備]



REAR [背面]



SIDE [側面]



FRONT [正面]



FRONT [正面]

REAR [背面]

SIDE [側面]

「黒いゴーストジェガンはこっちは嫌づかいまで拾っちゃまいそうなくらい過激に反応するんだ。俺がムカつきゃいつでも顔に出る、そんな感じだな(フリオ氏)」

「道員に余計な個性はいらねえ、こっちは高うことを素直に聞いてくれるだけでいいのさ。このMの真鍮特性はいつもの俺のやり方に冗員が添えてくれたみたいだな、昔使ってたジムスナイパーK9みてえよ(フリオ氏)」

基本的には1機を使い分けるゴーストジェガンだが、チーム戦も一般的になってきた近年のバトルシーンでは、2機で連携させるのも悪くないかもね……よくよく考えてみると、悪いのは汎用のやり方に合わせて作ってるのかもしれない(フリオ氏)JMがマリオ様で、Fがアリオ様だと聞いていました。「あんな……俺のスタイルはJulioだぞ? それに機体名に自分の名前を付けるなんて、どっかの中学生じゃあるまいし(フリオ氏)」



15



17

16

Dog Pac
[ドッグパック]

■ドッグパックK9もオプション装備として未だ存在だ。同じものをそのまま同じように扱うのは、そりゃ使う人間の怠慢だ。使い込めば使い込む個性は味は出てる。道具に余計な個性を引き出して個性を付けてやれりゃして事だよ(フリオ氏)



「め、あれ……?」近頃、夜中に目覚めて、ギョッとして立ち上がる。枕元に置いてある銃を手に取り、たまたま「ドッグパック」に手を触れた瞬間、何かが動いた。それは、まさか……? 「あれは……?」何かが動いた。それは、まさか……? 「あれは……?」何かが動いた。それは、まさか……?

「プラフスキー」粒子の特性云々より、つまるところ敵の有効箇所を銃弾を浴びせれば勝利する。ゴーストジェガンはそのシンプルなる事、ただシンプルに行う。俺達兄弟がガンフラバトルという枠組みに収まる以上、他人の楽しさもスポンジシンプを否定はしない。ただ、俺達は俺達のやり方によるに自由だ。の偉大なプレイヤーの言葉を借りれば、そういうのも自由なんだろう?

「いずれも基本は機体の『芯』、俗に言う素体状態で戦えるようラジエーションしているが、ジムスナイパーK9の装備類を廃棄させることも出来る。これはあくまで戦術の手段を増やすためのものではなく、これらが無くてもジェガンが本来備える火器類の有用性は確かだ。」

「アトキキユリス、注意深くファイアレス、恐れ知らず。もちろん戦場でも必要な要素だが、2機のゴーストジェガンにはこれらを象徴するような性能をそれぞれに与えている。静と動受けと攻め……このように受け取って貰っても構わない。」

「また、1体のガンフラに想い、キミツクを過ぎ込むのは大変結構だが、様々なシチュエーションでの戦いを強いる戦場へ毎回同じ装備で臨むのは、ただの愚か者。変形機構や機体の換装などと頭を凝らす前に、状況に合った仕様機構をはじめから複数用意すればいい。」

「初期型からマイナーチェンジしたジェガンD型は、内装部品の品質や信頼度も遙かに向上している。戦場では性能云々よりも突然の不具合つまり故障しないことが何よりも重要な点の点では、このベース機は最高の素材と言えるだろう。」

「製作した。」

「このタイプの特徴は、オプションパーツを接続可能なマウントラッチが胸部と腰部に新設されたことだが、ゴーストジェガンは2種共にこのギミックを活かしてはいない。設定通りに扱えば芸術点が加算され、勝率が上がるというのなら話は別だが……俺はジェガンD型のそういった表面的な部分ではなく、普通は蔑ろにせられやすい機体の『芯』の部分を活かす方向で製作した。」

「正直この手の露出は性能に合わないが、たまにはこういう戯れも悪くない。この2体のガンフラは、宇宙世紀で広く運用されたジェガンをベースに作り上げたもの。ジェガンD型には様々なバリエーションが存在し、今回はD型と呼ばれるタイプを選択した。」

「ゴーストジェガンF & ゴーストジェガンM
製作:スライオット 解説:フリオ氏

GHOST JEGAN F

GHOST JEGAN M



2

4

3



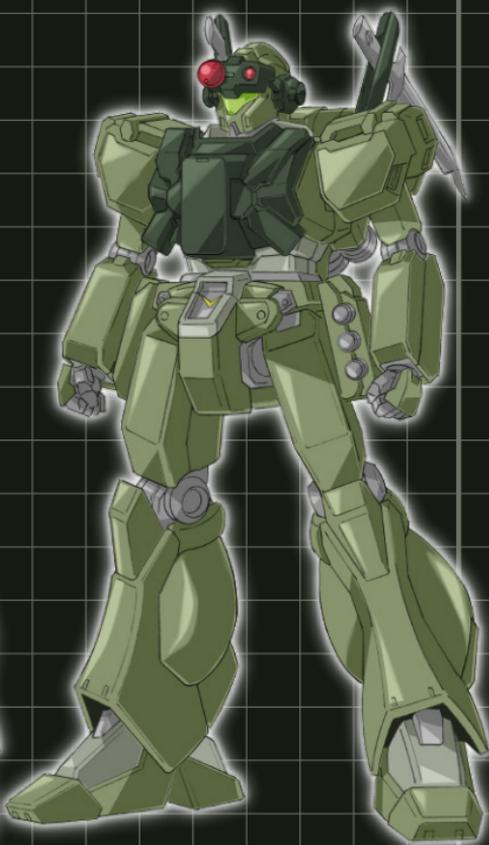
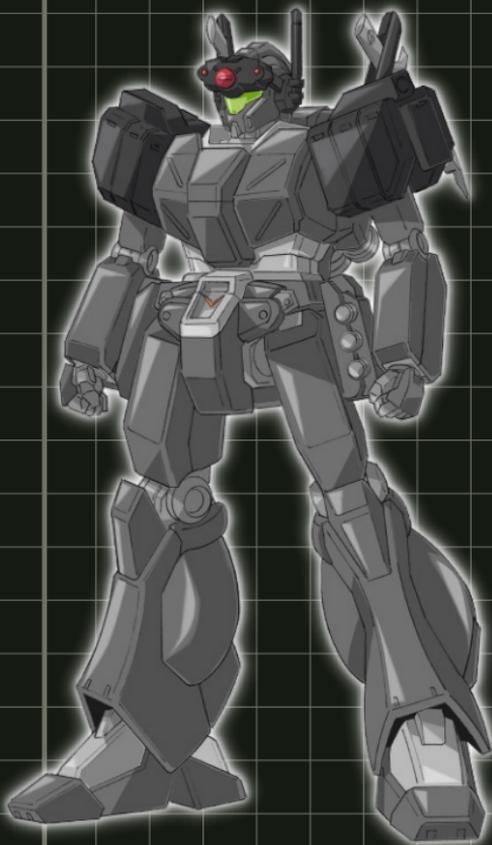
■ジムスナイパーK9と言えば切り札のEXAMSシステムを搭載していたが……切り札の話をここでするほど感かじや無いぜ。そりゃや、最近のガンダムじゃ青い炎を全身から噴き出す「ナイトシステム」ってのがあがる……あれは俺達に似合うと思ふよな(フリオ氏)

■当初、Fの黒い機体色は光を殆ど吸収する新開発塗料を採用する予定で、実際に製作もされたという。閉密性を高める方策として塗装とも言えるこのアイデアが、なぜ実現しなかったのだろうか?何事も限度はあるのだ(フリオ氏)さらけに聞いた。だしてみた。「う……真っ黒すぎて夜中に眠らなくて壊しちゃったんだよ、俺が(フリオ氏)」

メカニク・デザイナー

ケンジ・テラオカによる 描き起こし『再現設定画』公開!!!

とある時空ではケンズイー・テラオカノフと呼ばれているとか呼ばれていないとか……メカニク・デザイナー界のストイックマイスター、テラオカ氏がむせ返るようなゴーストジェガンのミリタリー臭気に誘われ、編集部に来てくれたぞ! いつも冷静なレナート兄弟も、流石に緊張の色を隠せない様子だったと記しておこう!!



GHOST GHOST JEGAN F JEGAN M